

令和6年1月9日

年頭のあいさつ

令和6年、辰年となりました。今年もどうぞよろしく願いいたします。

さて、皆さんもすでにご存じのとおり、年が明けた元日に未曾有の大地震が石川県で発生しております。テレビに映し出される映像を見ながら、熊本地震時のことが蘇り、当時の自分と重ねつつ画面を食い入るように見てしまいました。熊本地震は4月だったので気候的にはまだ良かったのですが、北陸地方の1月というと、どれだけ厳しい寒さなのか…想像を絶する状況で、たくさんの方がとても辛い思いをされていると考え、胸が苦しくなります。

また、沢山の方がお亡くなりになられております。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りいたします。

昨年4月に校長として、このかがやきの森に赴任させていただいて、改めて地域の皆様や子ども達、保護者、そして先生方に出会うことが出来ました。その中で「安全安心な教育環境づくり」と「一人一人が持てる力を精一杯発揮できる教育」を学校経営方針に掲げ、私たちの教育の専門性の継承・向上を図るために、関係分掌部の企画立案で様々な研修会等を開催していきました。

私ごとではありますが、年を重ねてくると、新しいことに対するチャレンジ精神が少し希薄になってくる傾向があるようです。何故かと言えば、変わらないでいる方が楽であるからです。一昔前は、「10年ひと昔」という言葉をよく耳にしていましたが、今はもっと速いスピードで社会全体が変化しています。日本政府は、日本が目指すべき未来社会の姿として、Society5.0を掲げています。Society5.0では、人工知能AIの登場やロボット、自動走行車などの技術により、貧富の格差など様々な課題を解決するというものです。今後、社会の変化や技術革新を受け、私たち教師に求められる役割や資質・能力も変化しています。例えば、教師には教え導くだけでなく、一人一人の個別、最適化された学びを支援する力が一層強く求められるようになりました。

このことを踏まえ、これから取り組む熊本高専との連携や特総研との研究協力をプラスにとらえて、子ども達の持てる力を存分に引き出していけるように取組の充実を図っていきたいと思います。

12月に開催されたいじめ問題対策委員会の席で、いじめの外部専門家である本校2代校長の五瀬先生から、次のような話がありました。

『「重い障がいのある子たちの教育の重みをどう考えるか、障害観であったり、教育観であったりが、先生方お一人お一人に問われているということ。教材も、今まであった教材を使えば、それなりに授業は組み立てられる。言葉は少し悪いが手を抜こうとすれば、出来ないことはない。学習した内容や、教材についての不平不満を帰宅してから保護者話すわけでもない。そのようなことから考えると、先生たちの「良心」にかかっている教育。まさに、かがやきの森の教育は「良心の教育」です。どうか、かがやきの子たちの教育を大切にしてほしい。」と話されました。』この話に、私も大変感銘を受けました。私も職員と一体となって、良心の教育を心掛けていきたいと思います。

今からの時期は、令和4年度の締めくくりでもある今学期を総括するととも

に、新年度へ引き継ぐための大切な時期でもあります。

かがやく笑顔、学ぶ感動、つながる喜び、明日への生きがいが生みだされるよう、前を向いて歩んでいきたいと思います。

今年も穏やかな年であること、子ども達が明るく元気でいられることを一番願っています。

富永 佐世子